

会 議 録

(1)実施概要

会議名称	第6回泉大津市子ども・子育て会議
開催日時	平成27年2月19日(木) 午前10時00分～午前11時30分
開催場所	泉大津市立総合福祉センター 第一会議室
出席委員 (名簿順。敬称略)	長瀬委員、久委員、川西委員、大橋委員、坂上委員、野口委員、納谷委員、 花重委員、佐々井委員、内藤委員、伊藤委員、田中委員、阪上委員 (欠席) 山口委員、竹中委員、 全15名のうち、出席13名、欠席2名
事務局	今北健康福祉部長、小川教育部長、三井社会福祉事務所長、 藤原こども未来課長、向井指導課長、東山教育総務課長、丸山生涯学習課長 竹内健康推進課長、森口障がい福祉課長、岡田こども未来課参事、 早野こども未来課長補佐、橋本こども未来課長補佐、こども未来課 河村 <委託業者>株式会社ぎょうせい木村
会議次第	1. 開会 2. 案件 ①いずみおおつ子ども未来プラン(案)に対するパブリックコメントについて ②泉大津市子ども・子育て支援事業計画の策定について(答申案) ③平成27年度泉大津市特定教育・保育施設利用定員について ④その他 3. 閉会
会議資料	【事前配付資料】 資料1 いずみおおつ子ども未来プラン(案)に対するパブリックコメントの結果について(報告) 資料2 いずみおおつ子ども未来プラン(案) 資料3 泉大津市子ども・子育て支援事業計画の策定について(答申案) 資料4 平成27年度泉大津市特定教育・保育施設利用定員について(案) 資料5 泉大津市子ども・子育て会議<論点整理>
会議の公開/非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開(傍聴者数1名) <input type="checkbox"/> 非公開
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他の必要事項	なし

(2)審議概要(意見要旨、審議経過、決定事項等)

事務局による進行	<p>1. 開会 (記録省略)</p> <p>2. 案件</p> <p>①いずみおおつ子ども未来プラン (案) に対するパブリックコメントについて (説明省略)</p>
会長 事務局 会長 委員	<p>◇まず初めに、「いずみおおつ子ども未来プラン」(案)に対するパブリックコメントの結果について事務局から説明をいただく。</p> <p>●「いずみおおつ子ども未来プラン」のパブリックコメントを平成26年12月1日から25日まで実施した。提出人数39名、意見件数12件、提出意見合計は85件だった。なお、同種の意見は1件として数えた。この結果、計画内容を変更しなければならないような意見はなかった。</p> <p>◇たくさんの市民の皆さまがパブリックコメントに関心をもたれ、意見を寄せてくださった。事務局で同種の意見をまとめていただき、代表的な意見をあげている。この件に関して質問はあるか。</p> <p>◇パブリックコメントに対する市の考え方の案が1月27日付で送られてきた。しかし、本日の手元にある資料1と、1月27日付けで送られた案と中身は同じだが、表題が違う(注:資料1の表題が「報告」となっている点)。なぜ表題が違うのかを教えてください。</p> <p>また、パブリックコメントに今回39件が寄せられているが、具体的な意見が多い。しかし、それに対する市の考え方は具体性に乏しいものもあり、市民にとっては分かりにくい内容になっている。</p> <p>例えば、小学校の給食や、公園に関する事などは丁寧に市の考え方を示しているが、他の項目については個々の意見は一括りにされている。これでは市民の不安や願いについて市がどのように応えていくのかが見えてこない。</p> <p>また、「保育料の値上げはしないでほしい」「給食の調味料はアレルギーに対応してほしい」との要望もあるが、これは実情を知らない市民の意見だと思う。保育料は来年度据え置きになっており、保護者は喜んでいいる。給食のアレルギー対応もすでに実施している。これ以外にも布団レンタルの要望が出ているが、これは現在、市で検討していると聞いている。実施していること、検討していることをしっかり市民に伝え、安心してもらうことが大事だと思う。「市民の意見を参考にしていく」という大雑把な対応ではなく、今後、検討していくこと、できないことをはっきりさせることが大事だと考える。こうしたことを踏まえながら、5点ほど質問させていただく。</p> <p>1点目は保育士について。保育をより充実させていくために保育士を増やしてほしいという意見がパブリックコメントに寄せられている。公立保育所の非正規職員の多さは保育の質を低下させているという意見も出ているが、これでは非正規職員そのものが否定されるという誤解を招きかねない。このことについての市の考え方が示されていない。非正規職員の中には素晴らしい先生方がたくさんいる。これまでの泉大津市の保育所を守ってきたのは、そういった先生方の力が大きい。しかし、非正規職員の先生たちの雇用が不安定で、仕事のうえでも制約があるのが現状だ。非正規職員の先生たちが安定した仕事ができるような措置を検討してもらいたい。さらに、各クラスに正職員を1人配置してほしいといった要望も出ているが、それに対する市の回答をお願いする。</p> <p>2点目は保育施設の整備について。パブリックコメントでは公立保育所などの整備をしてほしいという意見が多く出ている。昨年実施したアンケート結果も認可保育所35.7%、幼稚園31.6%、認定こども園24.5%と、保育所や幼稚園などへの希望が高い。また、すべての施設を認定こども園とするのではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の中から</p>

保護者が選べるようにしてほしいという意見がある。来年度からすべての民間保育所が認定こども園に移行する場合、保育所としては公立保育所が唯一残ることになる。

計画には「今後も保育所、幼稚園、認定こども園のすべてにおいて高い水準の教育・保育を受けられるように取り組んでいくことが重要」と記載されていることから、これを基本的な方針として、ぜひ、今後も保育所の整備を推進してほしい。

3点目は認定こども園について。認定こども園になっても保育所の時と変わらず、しっかりと子ども達を見てほしいとの要望が出されている。施設の規模が大きくなると、きめ細かな対応ができないのではないかと不安もある。

「くすのき認定こども園」が開園して10ヶ月が経った。保護者がまとめた評価によると「小学校に入っても顔なじみが多く安心できる」「幼稚園と保育所の良いところが吸収できる」などの良い意見がたくさん出ている。

その反面、不安や課題もいくつか出されている。例えば、「短時間部の保護者は今まで通り行事に参加して子どもの成長を見たいと思っているが、長時間部の親はあまり仕事を休めないで、昼間の行事への参加は大変難しい」「園からは自由に参加してほしいと言われているため、子どものことを考えると仕事を休んで参加せざるを得ない」といった長時間部の保護者もいる。保護者の不安や職員の思いを十分に受け止め、ひとつずつ充実していくことが大事だと考える。

4点目は発達障がい児について。発達障がい児の保育に関する市の考え方をしっかりと打ち出してほしいというパブリックコメントの意見が何点か出されている。これに対する市の考え方が示されていない。

計画には「発達障がい児の支援体制の充実」という項目があるが、具体的に何をどうするのか、市の考え方を具体的に聞きたい。

また、病児病後児保育に関して「受け入れ体制の強化に向けて関係機関と継続的に協議する」とあるが、関係機関というのは市立病院を含めているのか聞きたい。さらに「今後保護者が利用しやすいように条件整備に取り組む」とあるが、条件整備とは具体的に何をどうするのか聞きたい。体調不良の子どもへの対応は要保育所に限らず、どこの保育所でも保護者が迎えに来るまで先生たちがきちんと対応しているが、そのための部屋の確保と専門の看護師の配置が求められていると思う。

5点目は学童保育について。指導員の研修体制の充実には既に取り組んでいると聞いている。新しい制度に向けて既に実施していることや土曜日の1日保育など4月（新年度）から実施すること、あるいは実現が困難なことなどについて、市民の要望や意見にひとつひとつ答えていただきたい。保護者の就労と子育て支援、障がいの発達の観点から、発達障がい児を受け入れるための条件整備に取り組むということを市の考え方として計画に明記すべきと思う。

さらに、1年生児童への給食の開始の時期を早めることはすぐに取り組めることだと思う。以前は5月の連休明けから給食が開始されたと記憶しているが、その後、市の努力によって現在は4月20日頃から開始している。近隣の市町村で4月20日頃に実施しているのは高石市と岸和田市と本市である。堺市や貝塚市は他の学年と同じように4月9日から開始している。本市でも始業時から1週間前後で給食を実施すると、子育て世代を本市に呼び込めるまちづくりにつながると思う。

加えて、公園の整備も子育て世代を呼び込むためのまちづくりとして大事な施策と思うので、公園の拡充、遊具の充実などに引き続き取り組んでいただきたい。また、公園の清掃はだれがやっているかを聞きたい。

保育所の受け入れを朝7時から18時に統一してほしいという意見があるが、この時間帯以外で設定している保育所があるのかも聞きたい。

事務局

市民の関心も高く、どの意見はきわめて具体的である。市民の期待に応え、安心して子育てができる魅力ある市にするためにいずみおおつ子ども未来プランは具体的な計画であることが求められ、それを担うのがこの会議だと考えている。

●資料1は委員に送付した1月27日付のものとは内容は一切変わっていないが、表題が変わってしまったことはお詫びする。表題は、資料1「いずみおおつ子ども未来プラン（案）に対する市民等の意見・提案と泉大津市の考え方について」で統一したい。

また、市民の皆さまからたくさんいただいた個々の意見への丁寧な回答がないとの意見だが、個々の意見については、4章の推進施策等で方向性を示しているのご理解いただきたい。

1点目の保育士についてですが、常勤職員の配置するように考えている。正規職員と非正規職員という考えではなく、資格を持って職にあたっていただいているが、各クラスに正規職員を配置することは必要と考えている。

2点目の保育施設の整備について。計画に記載のとおり、保育所、幼稚園、認定こども園のいずれの施設においても、質の高い教育・保育を提供していくことは市の基本的な考え方である。保育所が今後残っていくかどうかという不安があるかと思うが、現在、保育所の廃止等については検討していない。

3点目の認定こども園について。本市では幼保連携型の認定こども園を推奨しているため、今後、民間保育所が認定こども園に変わっていく方向です。

4点目の発達障がい児について。乳幼児健診などで発達障がいと判断された場合には、保育所や幼稚園、小学校へ移行していくライフステージの中で支援が低下することのない支援体制を構築する方針である。

そのため、27年4月から保健センター内に新たに複数の発達支援担当者を配置し、個々の相談に対する窓口を設置する。また、家族支援としてペアレントトレーニングや関係機関とのコーディネートなども実施する。

病児病後児保育について、関係機関には市立病院も含まれており、それを含めて条件整備を考えていきたい。

5点目の学童保育について。既にホームページ、広報紙でお知らせしているとおり、27年度からは小学校6年生までの受け入れを実施する。預かり時間についても、午前9時からの預かりを午前8時からに拡大する。土曜日も9時から13時までの預かりを、午前8時から18時までの10時間に拡大する。さらに、授業参観の代休日やお盆休みも開設する。また、受益者負担の観点から、会費5,500円を6,000円に増額予定である。

学童保育の指導員の研修体制については、他市への視察、講師を招いての研修会などを随時行っている。新制度に向けて、指導員を各校1名ずつ増員する予定で、2月号の広報紙で指導員募集を行っている。

指導員の配置については、児童支援員の配置が条例で必須になったことに伴い、都道府県の認定を受けることが必要となる。そのため、27年度から経過措置の5年間を通じて、大阪府が実施する認定研修を児童支援員に随時受けていただく予定である。

発達障がい児の受け入れについては、現在、発達障がい児を4名受け入れており、今後も受け入れる方向である。ただし、手洗いの整備や階段の整備ができていない学校もあるため、施設整備については今後も関係する各課と協議を行っていく。

給食についてだが、過去には5月の連休明け開始だったが、現在は4月20日前後の開始としている。この日に設定している理由は、新入生が落ち着きはじめる時期であること、給食のマナーなども学習する時間を経た時期であること、給食を手伝う上級生の意識も統一された時期であることなどを踏まえて設定している。しかし、給食時期を早めてほしいという意見もあることは把握しており、今後検討していきたい。

<p>会長</p>	<p>公園の清掃について、公園の清掃はシルバー人材センターに委託している。</p> <p>◇事務局の説明を聞いていると、実際に実施しているのに市民に届いていないことも多いように思う。実施していることなどがどうしたら届くのかも今後の課題であろう。</p> <p>パブリックコメントは公開するのか。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>●市のホームページで公開していく。</p> <p>◇パブリックコメントを実施していることを知った市民はどれぐらいいたのか。意見を寄せたのは39名だが、この数は少ないと思った。子育て中の保護者のコメントが重要だと思うが、幼稚園、保育所などに「パブリックコメントをホームページでやっているのを見てほしい」という周知があったら、もっとたくさんの意見があったと思う。</p> <p>この結果についてもホームページに掲載するということが、広報紙やホームページを見ない保護者もたくさんいると思うので、「このような結果が出たから見てほしい」ということを幼稚園や保育所等の施設に知らせることもしてほしい。そうすることでもっとたくさんの意見が出るのではないかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>●パブリックコメントの周知については、郵送、ファックス、メール、こども未来課での受付を行うとともに、市内の公共施設、幼稚園、保育所、認定こども園すべてに「いずみおおつ子ども未来プラン」を置いてご覧いただいた。</p> <p>提出人数が少ないという意見だが、これまで市が実施しているパブリックコメントの中では、反響が大きかった数ではないかと考えている。また、結果報告についての周知もそれぞれの施設で行いたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>◇パブリックコメントの結果の報告は市民へ届くように行ってください。またパブリックコメントの件数が39件ということが、泉大津市の人口規模からみてこの件数は多い。関心が高いのではと思います。</p> <p>担当部署への報告についても、申し送りをするだけでなく、しっかり検討して頂けるように伝えていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>◇先ほど事務局から「公園の清掃はシルバー人材センターが担当している」との説明があった。このことに関して、それ以外にも、障がい者が公園の清掃を行っている。高校を卒業した後に働く場のない障がい者の就労支援として、市が公園の清掃を委託していることをお知らせしたい。市内の公園の半分を障がい者が清掃を受け持ち、1週間に2~3回の清掃を行っている。</p> <p>また、障がい者の放課後デイサービスについては、学校に迎えに行き保護者の帰宅まで預かるという民間のサービスであり、泉大津市でもたくさんの障がい者施設が参入している。</p> <p>障がい者といっても障がい者手帳の等級では判断できない。それぞれが個性を持っている。たくさんの障がい者施設が参入しているため保護者がどこを使うか選べる状況になっている。また、保護者の要求が高くなっているため、スタッフも対応するのに大変であるということを理解いただければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>◇公園の遊具について、家の近くの公園では危険な遊具が撤去された後、それに代わる新たなものが設置されていないので、新たな遊具の設置を望む。また、計画の中に質の高い教育・保育という言葉がたびたび登場するが、具体的にはどういうことなのかを教えてください。</p>
<p>事務局</p>	<p>●公園の遊具については、環境課が所管のため、委員のご意見を伝えて後日お答えさせていただきます</p>
<p>事務局</p>	<p>●質の高い教育・保育の中身についてだが、本市では教育・保育を一体的に考え、幼稚園、保育所、認定こども園における研修制度を充実させていきたいと考えている。</p> <p>保育所では保育時間内に研修時間が確保できなかったが、保育時間内外を含めた研修</p>

会長	<p>の確保や、研修内容の充実を行っていきたいと考えている。幼稚園に保育所の職員が研修に出向いたり、逆に保育所に幼稚園の職員が訪れたりするなどの人材交流を継続的に 行い、質の高い教育・保育の充実を進めている。</p>
委員 事務局	<p>◇計画の「6 本市の子ども・子育て支援の方向性」(P36)に記載されているとおり、子ども・子育て支援は、何よりも子どもの成長が優先され、すべての子ども達が等しく尊重される ことが基本になる。</p> <p>ベテランの保育士だけではなく、非正規の若い保育士も熱意をもってやってくさっている。こうした若い人材も活用しながら、泉大津市に住むすべての子が大事にされ、成長することを 実現していくことが質の高い教育・保育につながっていくことだと思う。</p> <p>◇研修というのは施設の先生方が研修を受けるということか。研修をするのはだれなのか。</p> <p>●研修とは、幼稚園、保育所、認定こども園の先生方が研修を受けることを指す。研修では、大学の先生などに来ていただくケースもある。</p> <p>また、実際の保育の現場を見学し、良いところ、改善しなければならないことを探り、話し合い、より質の高い教育・保育につなげていくことも行っている。研修は幼稚園、 保育所、認定こども園で現在まで 60 回ほどの実績がある。</p>
委員 事務局	<p>◇研修は今まで幼稚園はあったが、保育所はなかったのか。</p> <p>●幼稚園の研修は義務であったため、今までも行っていたが、今後も継続して行っていく。保育所は保育時間に子ども達がいるため、時間内での研修ができなかったが、時間外で行 っていた。それぞれの施設で働く若い先生もベテランの先生も原点に戻って、今までの指導が間違っていなかったかなどを具体的に話し合う機会も設けている。</p> <p>また、神戸大学教育学部や奈良教育大学の先生に来ていただき、この学びが小学校に どのようにつながるのかなどの研修も随時行っている。</p>
委員	<p>◇新制度の認定こども園は今までになかった施設と認識しているが、保護者の就労を支援する という側面もあるため、子ども達が犠牲にならないようなワーク・ライフ・バランスを 進めていってほしいと願っている。</p> <p>また、パブリックコメントの中で、認定こども園の定員を 200 名以内に抑えてほしい という意見もあった。しかし、かみじょう認定こども園の数を 400 名の定員としている。 こうした大規模な認定こども園はどのような運営を行っていくのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>●上条保育所と上条幼稚園をあわせた人数として 400 名と設定しており、現在の保育所棟で 3号認定の 0、1、2 歳を中心にして、地域子育て支援センターの機能を併せ持つ機能で運 営します。現在の幼稚園の園舎を使って 1号及び 2号の 3、4、5 歳の教育・保育を行って いきます。</p> <p>1号認定と 2号認定の子どもに対しては、1号認定は早く帰る、2号認定は残って保育 という形になるが、時間に限らず、教育・保育の一体的な提供として考えていきたい。</p>
委員	<p>◇本市では今年 1 月、泉大津市市民活動支援センターに「テクスピア大阪」を開設した。こ の施設の職員はすべて市民である。市民が市民に情報提供をしたり、相談に乗ったりとい う仕組みになっているのでぜひ立ち寄ってほしい。</p> <p>また、「協働」という観点から他市の事例を紹介する。先ほど、公園管理の話が出たが、 大阪市のある地域では公園の砂場が野良猫のトイレになっていて不衛生のため、地域が 立ち上がり、毎日、夜になると交代で砂場にブルーシートをかけるなどのサポートを行 っている。こうした手間のかかる、きめの細かな作業は地域の協力がなければできない。</p> <p>遊具の話も出たが、生駒市では古くなった公園を地域の方々のニーズに合わせてリニ ューアルしていくコミュニティパーク事業を行っている。この事業は、2年に1度のサイ クルでひとつの地域を対象に行われているが、地域が一丸となって取り組むことが必要 なため、地域の手がなかなか上がってこなかった。しかし、手をあげ、公園のリニュー</p>

	<p>アルが完成した後は地域の方々が世話をするため、デザインだけではなく、何年たっても維持管理がすぐく行き届いた公園として、地域の方々に活用されている。これは、先ほどの遊具ともかかわってくるが、どんな良い遊具を設置しても、経年劣化で危なくなってくるが、地域の方々のお手伝いがあれば劣化も防げる。</p> <p>さらに、大阪市のまちづくり協議会では、地域の方々が地域の子も達のために児童保育をやっている。この事業では委託料が自治体から出るため、地域内の雇用にも役立っている。この事業には民間業者が参入するケースもあるが、地域の子も達のために地域で手をあげて公募で勝ち取った。花見などの際も地域の行事と児童保育を組み合わせで子ども達と一緒に地域の方々楽しく交流している。こうした事例を参考に、泉大津市でも協働を進めていってほしい。</p>
委員	<p>◇発達支援担当のこと、学童保育の申し込み状況について教えてほしい。また、幼稚園での障がい児の一時預かりは可能なのか。</p>
事務局	<p>●発達支援担当については、在宅での1歳6か月検診などで発達障がい気づいた時から保育所や幼稚園に進んでいく中でのサポートがとぎれとぎれになっていたが、これからは、初めの気づきで関係をもった担当がずっと保育所、幼稚園、小学校と進んでいっても、ずっと相談にのっていくことがコンセプトになります。</p> <p>相談についてはワンストップで受けるが、こども未来課、障がい福祉課、教育委員会などと連携しながら、保育所での集団生活でどのように適応できるかを判断するとともに、施設の先生への指導も同時に行っていく。</p>
事務局	<p>●学童保育については、平成27年1月30日時点で27年度の申し込みを一旦締め切っている。入会条件があるため、すべての申込者が入会できるとは限らないが、速報値としては、昨年の同時期の567名に対して、652名の申込みがあり、昨年と比較すると1.15倍の申し込みとなっている。なお、6年生の入会の希望は現在のところ1名である。</p> <p>発達障がい児の受け入れについては、26年度も介助員がついて4名の児童を受け入れている。今後も可能な限り受け入れる方向で調整している。ただし、指導員の数の問題もあるため、マンツーマンでつくことができないケースもある。現在は複数名で1人を見るなどの対応となっており、状況に応じて可能な限り対応していく考えだ。身体的な障がいをもっている児童に対しては、施設の整備面で受け入れが厳しいケースもあることは理解していただきたい。</p>
事務局	<p>●幼稚園の預かり保育に関しては、自分のことが自分でできるという条件があるため、介助員がついている子どもに関しては、今のところ預かり保育は受け入れていない。また、3歳児の子どもに関しては26年度6月から全員受け入れており、定員は20名となっている。</p>
委員	<p>◇発達支援担当は何名の方を想定しているのか。</p>
事務局	<p>●発達支援担当の担当者数は正式に決まっていないが、要望は4名体制で出している。臨床心理士などの資格もった職員を3名、それらを統括する職員1名という要望をしている。</p>
委員	<p>◇現状でも、保健センター、市立病院、こども未来課などでの連携がとれているとは思えない。その辺は今後どういう形で連携していくのか。</p>
事務局	<p>●今までは確かに個々の支援だったことは否めない。個別支援会議などの開催を通じて連携強化を図っていききたい。</p>
委員	<p>◇学童保育は放課後から何時まで開設しているのか。</p>
事務局	<p>●夕方6時まで、今まで通りの受け入れ体制をとっている。</p>
委員	<p>◇夜の8時まで受け入れてほしいという保護者もいるが、この要望についてどう考えるか。</p>
事務局	<p>●学童保育に関するアンケート調査を昨年行った。その結果、最も多い要望が土曜日の開設時間の延長であり、次に多かったのが小1の壁と言われる朝の時間延長だった。この結果を受けて27年度から、まず要望の多い2つから実施することとした。</p>

会長	<p>夕方の延長についての要望もあることは理解しているが、防犯面や指導員の体制などの課題があるため、検討事項として次年度以降の課題としていきたい。</p> <p>◇案件①の「パブリックコメント」についてはこれで終了する。次に案件②「泉大津市子ども・子育て支援事業計画の策定について（答申案）」について事務局から説明をいただく。</p>
事務局	<p>案件</p> <p>②泉大津市子ども・子育て支援事業計画の策定について（答申案）</p> <p>●パブリックコメントの結果、資料 2「いずみおおつ子ども未来プラン（案）」の変更はなかった。次に、これに基づき、資料 3「泉大津市子ども・子育て支援事業計画の策定について（答申案）」を事務局で作成した。</p> <p>これらの案について会議で了承いただければ、答申案を長瀬会長から伊藤市長へ提出していただく。また、本答申案及び市長からの諮問内容は計画に掲載する。</p>
会長	<p>◇案件②について意見はあるか。（意見なし）</p> <p>特に意見がないようなので次に移る。答申案を私が市長に答申させていただくが、その際に、市長から意見が出た場合には、委員の皆さまに報告させていただく。</p> <p>次に、案件 3「平成 27 年度泉大津市特定教育・保育施設利用定員について」事務局から説明をいただく。</p>
事務局	<p>案件</p> <p>③平成 27 年度泉大津市特定教育・保育施設利用定員について</p> <p>●平成 27 年度より子ども子育て支援制度で施設型給付を行うには各施設の利用定員を設定する必要がある。各施設から市町村への確認申請で利用定員を設定するが、新規施設の利用定員に関しては子ども・子育て会議の意見を聞かなければならないとされている。また、会議での意見を聞いた後、大阪府と協議し決定する。利用定員一覧の N013～20 が新規設置の施設となる。これらは現在、保育所や幼稚園として運営されているが平成 27 年度より幼保連携型認定こども園に移行予定の施設であり、現在、認定こども園の認可申請中である。認定こども園に移行することで供給体制の増減もあるが、「いずみおおつ子ども未来プラン」に記載の需要と供給体制の利用を損なう利用定員の設定ではないため、資料 4 の利用定員の設定で問題がないと考える。この定員設定で特に意見などがなければ、大阪府と協議したいと考えている。</p>
委員 事務局 委員	<p>◇資料 4、3 頁目の 1 号認定についてだが、この数字で正しいのか。</p> <p>●数字の記載に誤りがあったので訂正させていただきます。</p>
事務局	<p>◇この訂正した数字で問題はないのか。これから子どもも減っていくが、現在の幼稚園児の数からするとどのくらいの供給体制なのか。</p> <p>●問題はないと考えている。現在、幼稚園児の在園数は約 900 名だが、民間幼稚園、他市の幼稚園に通園している幼児もいるので、もう少し在園時数は増加すると思うが、この供給体制で十分対応できると考えている。</p>
会長	<p>◇他に意見がないようなので、資料 4 の利用定員で大阪府と協議していただく。</p>
会長 事務局	<p>案件</p> <p>④その他</p> <p>◇計画書の配布など、今後のスケジュールについて事務局に説明をお願いします。</p> <p>●3 月中に長瀬会長から伊藤市長に答申案を提出していただいた後、「いずみおおつ子ども未来プラン」が決定する。その後、印刷を行い、完成次第、委員の皆さまをはじめ、市民の皆さまにもご覧いただきたい。</p>
会長	<p>◇他に質問はあるか。（意見なし）</p>

事務局	<p>本日はこれで終了する。これまで全 6 回の会議を行い、委員の皆さまから積極的な意見をうかがい、本日まとめることができた。ご協力に感謝する。</p> <p>●泉大津市こども子育て会議は本日で終了するが、計画の進捗状況や子育て支援施策の実施状況の調査審議などを行う必要があるため、今後も年 1 回程度の開催を予定している。</p> <p>次回の会議は未定だが、開催する際には改めて日程調整の連絡をさせていただく。</p>
事務局	<p>●最後になるが、長瀬会長をはじめ、委員の皆さまには全 6 回の会議に出席いただき、貴重な意見をいただき、子ども子育て支援の方向をまとめることができたことに、大変感謝している。</p> <p>今後は、プランの基本理念である『—「笑顔で育ち育てられるまち」を目指して—すべての子どもがたくましく育つ、みんなで子育てを応援するまち・泉大津』を踏まえながら、幼稚園、保育所、認定こども園、地域、学校、家庭、行政などが一体となり、子育て支援に取り組んでいきたい。</p> <p>委員の皆さまには、今後とも引き続き、泉大津市の子育て支援にご尽力をいただきたい。本プランの策定にご努力いただき、重ねて感謝申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>